



大分県大分市

相馬 勇樹 (兄：写真右)

雅志 (弟：写真左)

営農類型：施設野菜（にら）

作付面積：夏にら（90a）

冬にら（130a）

出荷量：133,345kg（R5.1月～12月）

私について 就農のきっかけ

（勇樹氏）長男ということもあり、20歳を過ぎたあたりから就農を考えていましたが、当時別の職についていたため、就農を決心してから、大分県農業大学校研修部に入校し、1年間学んだあと平成26年に就農しました。

（雅志氏）私は、保険営業の仕事をしていましたが、先に就農した兄（勇樹氏）から農業に誘われ、令和2年に就農しました。

就農時に活用した支援（大分県親元就農給付金（開始型））

（雅志氏）就農にあたって、大分県の普及員に相談したところ、県独自の補助「親元就農給付金制度」があることを知り、2年間開始型の給付金を受給しました。給付金を受給していたことで、就農後も家族に遠慮せず、様々なことを教えてもらう心の余裕に繋がり、大変ありがたかったのを覚えています。

地域団体への加入状況

JAおおいた中央にら部会の青年部に加入し、勉強会や飲み会が年に2、3回開催されているので情報交換を兼ねて参加しています。他にもJA主催で年に4回程度勉強会があります。他の部会員の圃場を見てトラクターのかけ方を学んだり、様々な情報交換を行いながら交流しています。

新規就農者にむけて

就農を予定する地域で栽培が盛んな品目で就農したほうが良いと思います。農地を借りやすく、規模拡大もしやすくなります。何より、同品目を栽培する農家からのサポートを受けることができることが大きな利点だと思います。

親元就農について

にらの施設栽培は、安定して収穫でき、収益も安定していることから、親には生活しやすい品目を選定してもらったと思います。新規作目を導入し、国の開始資金を受けるという選択肢もありましたが、家族でにらを栽培したいと思い、就農時には国の資金を受給せず、親元就農を選択をしました。親の基盤があったため、新規参入者に比べ、負担が軽いと感じています。

今後の目標と取り組みについて

（勇樹氏）私が就農したころから、少しずつ作付面積を増やし、単収も上がっています。今後はさらに単収増加を図りながら売上目標1億円超えをめざし、頑張っていきたいと思っています。